ICT 通信

第14号

青梅市立第六小学校研究部
発行者　研究部　竹原弘樹
発行日　令和３年6月15日（火）

作文を打ち込むと可能性が広がる！

　6年生では、「私たちにできること」という国語の学習をしています。「主張作文」「人権作文」と併せて学習を進めているところです。作文指導は書き直しが多く、子供たちは何度も書き直すことで意欲を失う場合もあります。そこで、このような学習をしてみることにしました。

①作文の構成メモは紙に書かせます。
②文章の下書きを打ち込ませます。
（Classroom でドキュメントを配布して入力させます。音声入力でも良いと思います。）
③自分自身で読み直し、子供同士でアドバイスしてから教員が添削します。☜ここが気軽にできる！
④完成した作品を、丁寧に清書します。（原稿用紙の使い方も押さえる。）

　この流れの学習が定着すれば、次のような効果が生まれると考えています。
- ・友達からアドバイスを受けた内容をすぐに反映できる。
- ・教師からの文章添削が簡単にできる。

　⇒書き直す時間が減り、その時間を活用した学習が可能となる。
　　例：友達の文章を読んでコメントをし合う活動、良い文章の真似をして取り入れる活動
　　　原稿用紙の使い方を確認する活動、倒置法や体言止めなどの工夫を考える活動等

　一方、次のような課題も考えられます。
- ・漢字を書く力が不足する可能性がある。
- ・長時間文章を書くことに慣れさせることができない。
- ・打ち込みは低学年には難しく、できる学年が限られている。

　これらの成果と課題を今後の学習に生かせるようにしたいと思います。

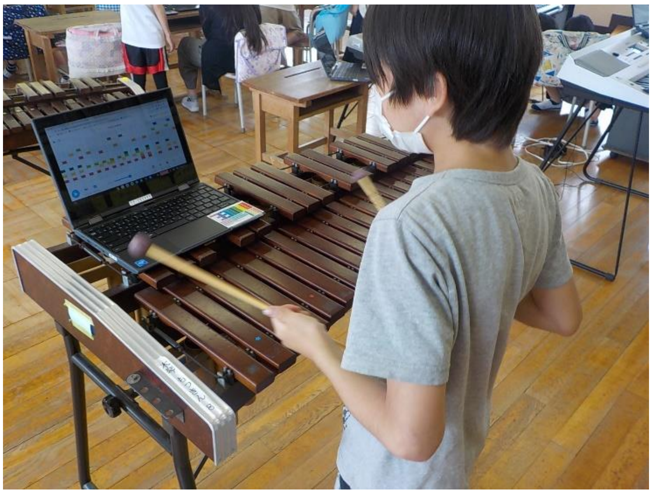
ぼくは幼稚園の年長のときにすこし人とかかわるのがにがてな障害のいとこがいました。
そのいとこはほかの友達にからかわれていていつもいや思いをしていました。
ぼくは「ほかの人とちがう所があるだけでどうして人はからかいたくなるんだろうか

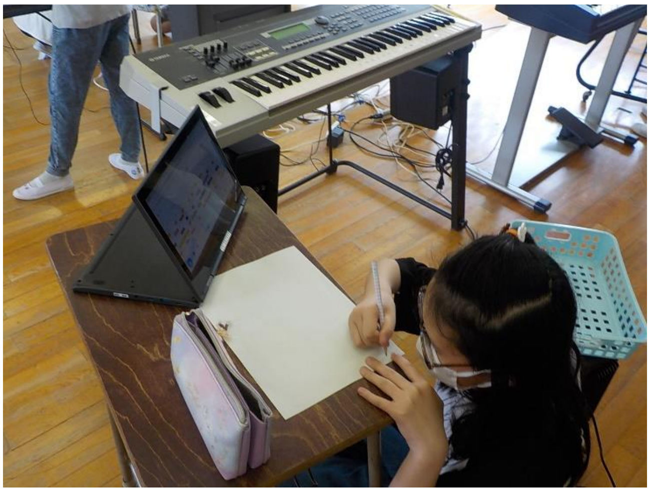
駅で歩いてるとき足を引きずる障害者がいました
僕は助けようとしたけど無理でした。
体に障害のある人のことを調べたら、体に障害をもつ人は「３６６．３」万人もいます。体に障害を持つ人が困ってることは公共交通機関に不便に感じるトイレに不便を感じる、障害者の駐車場に不便を感じるということが分かりました

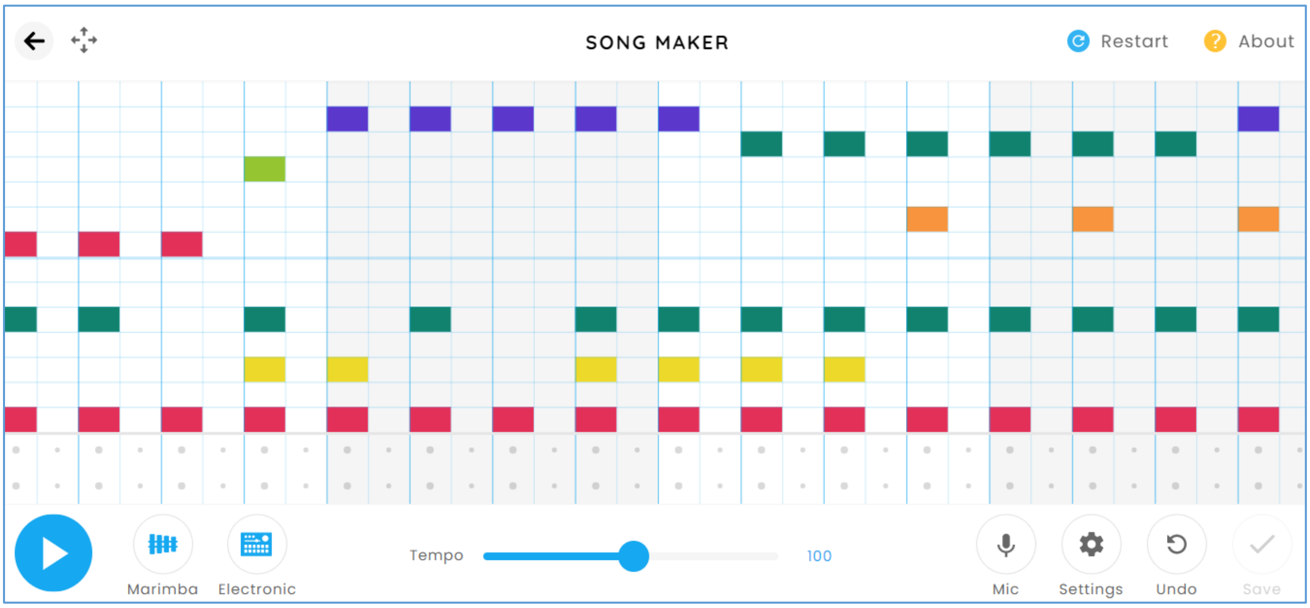
タブレットで作曲活動ができます！

音楽の学習では、曲作りをしています。Ⅰ（ドミソ）Ⅳ（ドファラ）Ⅴ（シレソ）の和音に合わせてメロディーを考え、実際に演奏してみる活動です。ここで、タブレットを活用した学習が進んでいます。

SONG MAKER（https://musiclab.chromeexperiments.com/Song-Maker）というサイトを活用することで、直感的な曲作りを行うことが可能です。







↑色と上下の位置で音階を、左右の位置でリズムを表しています。再生速度を遅くして、自分が作ったメロディーを流しながら演奏の練習ができます。いろいろな楽器の種類も入っているので、自分のイメージにある曲作りをして演奏するという活動ができます。子供の想像力の幅を広げるのに役立っています。